

## 両親間葛藤を認知した子どもへの支援の考察

—きょうだいの有無や親密性と抑うつに着目して—

Consideration of Support to Children that Recognize Parents' Marital Conflicts

—To Focus on Children Have Close Sibling or Not and Depression—

木下大輔

KINOSHITA Daisuke

立命館大学大学院応用人間科学研究科

Ritsumeikan University Graduate School of Science for Human Services

Key words: 両親間葛藤, きょうだい, 親密性, 抑うつ

### 問題

両親が口論をしたり、お互いを無視し合ったりするという両親間葛藤を認知した子どもの心理的適応に関する研究は、欧米を中心に我が国でも盛んに行われている。それらの研究によれば、子どもの年齢に関わらず、両親間葛藤の有無が子どもに与える影響は大きく、子どもの成長に否定的に作用するとのことである。しかし、両親間葛藤を認知した子どもにきょうだいがいるかどうか、またきょうだいがいることでその子どもの心理的適応に違いがみられるかどうかといった研究はなされていない。

本研究では、大学生を対象として抑うつを指標に両親間葛藤が子どもに与える影響と、きょうだいの有無や親密性による心理的適応の違いを調べ、きょうだいの有無に着目した支援の在り方を考察することを目的とする。

### 方法

**協力者** 大学生237名に質問紙調査を行った。このうち、きょうだいのいる群181名（男子86名、女子95名）と、いない群56名（男子32名、女子24名）とに分けた。

**手続き** 【調査1】では川島、眞榮城、菅原、酒井、伊藤（2008）の研究で用いられた、20項目からなる両親間葛藤認知尺度を、【調査2】では加藤（2007）の研究と同様に、①親密性の程度、②類似・異質性の程度、③自己開示の程度、④役割行動期待の程度を調べる質問から合計60項目を、【調査3】では氏家、二宮、五十嵐、井上、山本、島（2010）の作成した、30項目からなる抑うつ症状測定尺度を用いた質問紙調査を行った。

### 結果と考察

**分析1** 両親間葛藤認知得点の主効果には有意傾向が見られた ( $F(1,233)=3.59, p<.05$ )。また、きょうだいのいない群において両親間葛藤認知得点が抑うつ得点に対する単純主効果が見られた ( $F(1,233)=5.78, p<.05$ )。

**分析2** 抑うつ得点に対するきょうだい間の親密性得点のみ主効果が見られた ( $F(1,177)=4.88, p<.05$ ) が、両親間葛藤認知得点には主効果は見られなかった ( $F(1,177)=0.38, n.s$ )。

以上により川島ら（2008）の研究でも示されたように、両親間葛藤の認知が抑うつと関連があることが示唆された。これより、精神的・肉体的に発達した大学生においても、自分の両親の間に葛藤があれば、それを認知するという経験が心理的に否定的な影響を与えるものと言えるだろう。また、きょうだい無群にのみ両親間葛藤認知得点の単純主効果が見られた。このことから、ひとりっ子が両親間葛藤を認知すると、直接的に抑うつに影響を与えられられる。これに対してきょうだい有群では、両親間葛藤認知得点の高群と低群で抑うつ得点に差が見られなかったことから、きょうだいを持つ者が両親間葛藤を認知する場合はそれが直接的に抑うつに作用しないと考えられる。この理由には、きょうだいを持つ者にとっての家庭内の問題は、両親間葛藤だけでなく、きょうだい間やきょうだいと両親の間の葛藤なども存在しうるためであると考えられる。また、きょうだいの仲が良ければ抑うつ得点は低くなり、仲が悪ければ抑うつ得点は高くなると考えられる。つまり、両親間葛藤の認知ときょうだい間の親密性は、それぞれ独立して抑うつに作用していると考えられる。

今回の結果からはきょうだいの有無や親密性によって両親間葛藤を認知した際の子どもの抑うつに差はあまりなかったと言える。したがって、そういった子どもに対する支援は、きょうだいを家族の中のひとつの資源として活用することも考えられるが、それにとらわれるのではなく、当事者のことを第一に考えて支援をする必要性が示唆された。ただし、今後は個別の事例も含めて検討する必要がある。

### 引用文献

- 加藤 司（2007）．大学生における友人関係の親密性と対人ストレス家庭との関連性の検証，社会心理学研究，23，152-161．
- 川島 亜紀子ら（2008）．両親の夫婦間葛藤に対する青年期の子どもの認知と抑うつとの関連，教育心理学研究，56，353-363．
- 氏家達夫ら（2010）．夫婦関係が中学生の抑うつ症状におよぼす影響：親行動媒介モデルと子どもの知覚媒介モデルの検討 発達心理学研究，21，58-70．